

I 全国学力・学習状況調査結果について

平成 30 年（2018 年）7 月 31 日に文部科学省から「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、豊中市全体の結果についてお知らせします。

1. 調査結果の公表について

(1) 文部科学省の基本方針

文部科学省は、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、公表に当たっては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮することとしています。

(2) 本市の基本方針

本市においては、本調査の実施趣旨にもとづき、これまでの施策の検証・改善に努め、児童生徒の豊かな学びに向けた取組みをさらにすすめていくため、分析結果の公表のあり方などについては、次のように示すこととしました。

- ① 本調査は、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ることなどを目的としていることを踏まえ、教科全体の平均正答率といった一括した数値ではなく、教科の「内容」や「育てたい力」などの視点から設問・領域別に分類し、本市の児童生徒が学力のどの側面に改善が必要であるか、又、どの側面をより伸ばす取組みが重要であるかを明確にする。
- ② 公表に際しては、教科に関する調査の設問・領域別の数値、児童生徒質問紙調査(生活習慣や学習環境等に関する質問)の数値を公表するとともに、教科に関する調査と児童生徒質問紙調査との関係を分析して、特徴的な状況等を公表する。

2. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日 平成 30 年(2018 年) 4 月 17 日 (火)

(3) 調査の対象

- ・小学校第 6 学年の原則として全児童（本市立小学校の参加児童数 3, 4 0 5 人）
- ・中学校第 3 学年の原則として全生徒（本市立中学校の参加生徒数 3, 0 5 9 人）

(4) 調査事項

① 教科に関する調査

- ・ 小学校調査は、国語、算数、理科、中学校調査は、国語、数学、理科とする。
- ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- ・ 出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、下表のとおりとする。

主として「知識」に関する問題（A）
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響をおよぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
主として「活用」に関する問題（B）
知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力などに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

- ・ 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。
- ・ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

② 児童生徒質問紙調査

- ・ 調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3. 豊中市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査結果の概要

- 「朝ごはんを食べている」、「人の役に立つ人間になりたい」児童・生徒の割合は、昨年度に引き続き多い状況にあります。

(2) 教科に関する調査結果の概要

【小学校】

- 国語においては、A 問題の「読むこと」と B 問題の「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率（以下、正答率と表記）がやや高くなっています。一方、A 問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と B 問題の「書くこと」「読むこと」の領域の正答率が低くなっています。
- 算数においては、B 問題の「量と測定」の領域の正答率が高くなっています。
- 理科においては、A 区分の「物質」の正答率がやや高くなっています。

【中学校】

- 国語においては、A 問題の「読むこと」と B 問題の「書くこと」「読むこと」の領域の正答率が高くなっています。
- 数学においては、全体的に正答率が高く、特に B 問題の「図形」「資料の活用」の領域の正答率が高くなっています。

- 理科においては、第2分野「生物的領域」を除いて、全体的に正答率が高くなっています。

【小学校、中学校ともにみられる課題】

- 国語では、目的や意図に応じ、内容を整理して、詳しく書く力を身に付けていく必要があります。
- 算数・数学では、示された情報や資料を解釈し、着目したことを記述する力や問題解決の方法を数学的に説明する力を身に付けていく必要があります。
- 理科では実験を通して導き出す結論について記述する力を身に付けていく必要があります。

4. 結果の公表について

次のような方法で広く情報発信し、保護者・市民の皆さんと成果や課題の共有を図っていきたいと考えます。

- ① 小学校6年生、中学校3年生の保護者の皆様方には分析結果を結果概要・報告集として配付します。
- ② 報告集は、市政情報コーナーや豊中市教育センターにも置き、市民の方々に発信します。
- ③ 豊中市教育委員会事務局のホームページに結果概要・報告集を掲載します。

関連ホームページ

- 国立教育政策研究所 **w e b**サイト
「全国学力・学習状況調査 平成30年度調査」
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
- 大阪府 **w e b**サイト
「全国学力・学習状況調査の結果」
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/zennkoku/index.html>
- 大阪府教育センター **w e b**サイト
「全国学力・学習状況調査 大阪府結果 平成30年度」
<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/gakuryoku/index.html>
- 豊中市 **w e b**サイト
「全国学力・学習状況調査結果」
http://www.city.toyonaka.osaka.jp/kosodate/kyo_iin/gakkodukuri/gakuryokugakusyuu/index.html